

科 目 名

日本の文学Ⅰ

Japanese Literature Ⅰ

1年 前期 2単位 選択

原 田 榮 作

概 要

明治以降洪水のように流入してきた西洋の思想や文化の強い影響のもと、小説は言うまでもなく近代詩や近代短歌、近代俳句など、我が国の文学は急速に進展をとげた。江戸時代の儒学を中心とする武士階級の教養全般をさす近世的概念から、言語芸術の総称としての近代的概念に移行したのである。その後、大正ロマンの時代を経て昭和戦後の現代文学に至るまで多くの小説家が誕生し、文学作品が生まれた。加えて、学校教育と活版印刷、およびマスコミの発達を読者の飛躍的な拡大に拍車を駆けることになった。これらを概観することにより日本人の思想の変遷をたどりながら近代日本文学の特徴を理解する。

また、副次的に、日本語の基礎学力を養成するために、読後の感想文・小論文の書き方や語彙力の向上を図る。

目 標

- ① 近代日本文学の中の代表的な小説作家の代表的な作品を読み、その特徴を理解する。
- ② 感想文、小論文などの文章の書き方の基礎力を養成する。
- ③ 漢字の書き取り、かなづけ、四字熟語、ことわざなど、日本語の基礎力を養成する。

授業計画

- 第1回 第2回 前期講義内容を説明する。近代文明思潮の変革について理解させる
福沢諭吉の「学問のすすめ」の鑑賞をする。
- 第3回 第4回 第5回 夏目漱石の「坊っちゃん」を鑑賞する。
- 第6回 第7回 菊池寛の「父帰る」を鑑賞する。
- 第8回 第9回 森鷗外の「舞姫」を鑑賞する。
- 第10回 第11回 第12回 川端康成の「雪国」を鑑賞する。
- 第13回 第14回 武者小路実篤の「友情」を鑑賞する。小論文の書き方について。
毎回、「日本語の力をつけましょう」の確認テストを実施する
- 第15回 定期試験。

授業方法

講義：自作の教科書を使う。プロジェクターを使って各種関係資料を提示する。

適宜に10分間の感想文を書かせて提出させる。

毎時間、自作教材の「日本語の力をつけましょう」の範囲を限定して確認テストを実施する。

評価方法

定期試験（50点）、毎回の確認テストと感想文（50点）、合計100点。60点に満たないものは再考査をする。

学習到達度の評価

- ① 授業中に教員より質問して理解度を確認する。
- ② 可能な限り、学生の方からも積極的に質問するように促す。
- ③ 学生が書いた読書感想文や小論文の優秀なものを公表して参考にさせる。

教 材

自作の教科書、プリント教材を使用する。

履修上の注意

上記作品を図書館の本を利用するか、各自で文庫本を購入するかして必ず読む。